



3

てくれました。
代表を務める金井田誠さんは、お子さんが橋本さんの教室に入門したことがきっかけでお囃子の楽しさを知り、すっかりお囃子の虜になったそうです。また、教室に来る子どもたちの『もつと色々なお囃子を演奏したい』という意欲を大事にしようと考え、お囃子の継承と創作活動を柱に活動する団体【お囃子嫩】を立ち上げ地域づくり活動団体に認定されました。嫩(どん)の意味は「新芽が吹く・若々しい」と、「お囃子の音が心にドンと響くように」との願いを込め子どもたちが名付けたそうです。

顔で答えてくれました。
継続することです。身についたお囃子は子どもたちの財産となり、町の伝統文化の継承としてもとても重要なことです。

かとお囃子は楽しいです」と笑顔で答えてくれました。
継続することです。身についたお囃子は子どもたちの財産となり、町の伝統文化の継承としてもとても重要なことです。



1



2

継承は日々の積み重ね

お囃子の継承で大事なことは、当たり前ですがお稽古を欠かさないこと。取材を行った4月28日(水)は5月8日(土)に行われる神幸祭の練習日でした。元気なあいさつで集まる子どもたちの姿からお囃子が大好きなことがすぐに伝わってきました。

活動は自由な発想で

活動を始めてまずプロ奏者の公演を視察。プロの演奏に触れることにより子どもたちは大いに刺激を受けたそうです。以来お囃子を創作し日々意見を出し合った結果、応援囃子『全開！嫩』など嫩のイメージに合った痛快なお囃子が完成。現在では4曲の創作楽曲が完成しているそうです。一年間の活動を踏まえて導き出した進む道は、「お囃子エントーテインメント。各地で活躍する太鼓・お囃子チームに負けない舞台芸術の創造です」と語ってくれました。

土佐井地区のお囃子継承者は、『子どもたち』

昭和52年春から土佐井地区ではそれまでの青・壮年団に代わってお囃子を担うことになったのが子どもたち(今では40過ぎていきます)。当時の指導者である、故・橋本恒材さんがしっかりと伝授を行い、以来30年余り絶えることなく子どもたちの手によって伝統のお囃子は継承されてきました。その意志を受け継ぎつつ新たな楽曲の創作活動を行う「お囃子嫩」をクローズアップします。



向上心のなせる技

指導者の橋本浩さんは土佐井祭囃子保存会指導員として10年前から毎年祭りのある4・5月だけの短期指導を続けてきました。数年前に熱心な子どもたちの希望で「週2回のお稽古ができるお囃子教室」を、土佐井地区の先輩方のご協力により開いたそうです。「教室開講はお囃子をこよなく愛している子どもたちの向上心のなせる技。そのうえ父が後継者として私にお囃子に関わるように運命付けたのでしょね」と明るく語っ

世代間の切磋琢磨

活動理念に『お囃子を通して伝統文化への理解と世代間の理解を深め地域社会の発展に貢献する』を掲げて小学生から70代の高齢者まで、幅広い世代が集まり活動しているお囃子嫩の皆さん。お囃子の継承だけでなく、篠笛の製作・工作活動や



4

3 傘ぼこで道囃子を演奏
4 各種地域イベントに参加

1 神幸祭に向けて練習する子どもたち
2 代表者の金井田誠さん(左上) 指導者の橋本浩さん(右上)